

「有料化」から3ヶ月…その成果は？

国分寺市環境部ごみ減量推進課 課長 大谷 明雄

国分寺市はさらなるごみの減量化と資源化を推進するため、6月から家庭ごみの「もやせるごみ」「もやせないごみ」の有料化をスタートしました。

有料化から3ヶ月がたって…

市民に皆さんのおかげで、家庭から排出されるもやせるごみともやせないごみが減少して、資源物の紙類や衣類・布類や資源プラスチックなどが増加しています。有料化に伴いごみを分別し、資源として再利用する意識が高まり、ごみの減量・分別の徹底が図られています。

	平成 24 年 6 月～8 月	平成 25 年 6 月～8 月	増減量 (率)
もやせるごみ	4,262.41 t	3,536.20 t	▲726.21 t (▲17.0%)
もやせないごみ	629.08 t	339.57 t	▲289.51 t (▲46.0%)
紙 類	943.27 t	1,039.91 t	96.64 t (10.2%)
衣類・布類	78.45 t	115.34 t	36.89 t (47.0%)
資源プラスチック	448.49 t	535.42 t	86.93 t (19.4%)

これまでの減量化・資源化施策

国分寺市では平成 19 年 1 月から戸別収集を実施し、この間、市報・ホームページ掲載、自治会・町内会への回覧配布、イベント開催や参加、廃棄物減量等推進委員などとの連携事業などでごみの分別・資源化などの啓発活動を行ってきました。

もやせるごみに関しては、①「生ごみ水きりひとしぼり」運動の実施 ②家庭用生ごみ処理機購入助成金の引き上げ ③小学校・保育園の給食残のたい肥化に加え、たい肥化事業の拡充として、家庭から排出される生ごみの拠点収集を行い、生ごみの減量・資源化を図りました。

もやせないごみに関しては、平成 23 年度より陶磁器（食器）の再資源化を図るため、公民館や清掃センターでの拠点収集を開始し、平成 25 年 3 月から金物類や小型家電の収集品目を拡大し、拠点箇所も地域センターなど拠点の拡充を行いました。

ごみ・資源物量の推移

国分寺市のごみ・資源物量全体はこれまでも市民の皆様のご協力をいただき、毎年減少していました。次ページの表とグラフでわかるように、平成 24 年度の総排出量は、30,951 t で前年と比較して約 0.7% 減少しています。戸別収集実施以前の平成 17 年度と実施後の平成 19 年度の比較では、全体で約 4.5% の減少となっています。

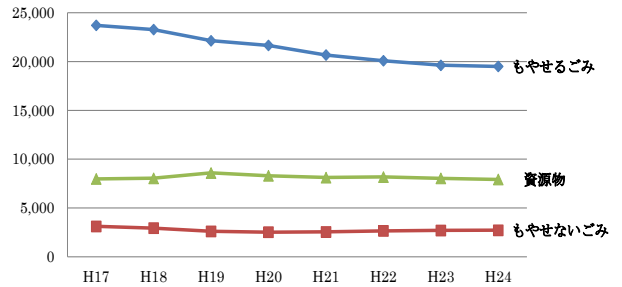
また平成 17 年度から平成 24 年度まで、ごみ・資源物量全体は、平均で約 2.0%、もやせるごみは、約 2.7% 毎年減少していますが、もやせないごみは平成 21 年度以降増加傾向にあります。

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
もやせるごみ	23,702	23,270	22,129	21,648	20,669	20,085	19,619	19,496
もやせないごみ	3,124	2,943	2,619	2,528	2,554	2,662	2,709	2,731
粗大ごみ	770	607	623	651	650	720	751	752
有害ごみ	54	56	51	50	61	53	52	44
資源物	7,985	8,047	8,596	8,305	8,126	8,179	8,044	7,928
合計	35,635	34,923	34,018	33,182	32,060	31,699	31,175	30,951
前年比	—	▲2.0%	▲2.6%	▲2.5%	▲3.4%	▲1.1%	▲1.7%	▲0.7%



有料化でさらに減量を

東京の多摩地区では多くの自治体が、戸別収集と家庭ごみの有料化を併せて導入し、ごみの減量化に実績をあげている状況があります。



国分寺市は戸別収集に関しては先行実施していますので、以下の理由から家庭ごみの有料化を実施することによって、さらなるごみの減量化・資源化を推進することにしました。

- ① 最終処分場の延命化を図る
- ② ごみ処理過程で発生する二酸化炭素を削減する
- ③ 老朽化した市焼却施設の延命利用を図る



有料化導入による減量目標値

有料化に実施に伴い、発生・排出抑制や分別の啓発によるごみの減量と併せて資源化の推進が図られ、もやせるごみともやせないごみは減量、資源物は増量を目指します。

項目	平成 26 年度	平成 30 年度
もやせるごみ	▲20.0%	▲25.0%
もやせないごみ	▲25.0%	▲40.0%
資源物	25.0%	30.0%

(平成 23 年度のごみ・資源物の収集量をもとに設定)



有料化に併せて実施していく市の主な取り組み

- ◆ 生ごみの水切りひとしぼりプラス天日干し運動の継続
1世帯1日約50gが減量できます。啓発活動を継続して行い、実施世帯の拡大を図ります。
- ◆ 生ごみたい肥化の推進
資源として有効活用して、家庭から排出される生ごみをもやせるごみとは別に収集し、たい肥化を推進します。
- ◆ 分別を徹底するための啓発活動の強化
もやせるごみやもやせないごみに含まれる、資源化できる紙類やプラスチック類の分別の徹底を図るため、各種イベントを通じて啓発活動を実施します。
- ◆ 集団回収の促進
新規団体の増加や回収量の増加を図り、集団回収を促進します。
- ◆ 陶磁器・小型家電・金物類の拠点収集の拡充
もやせないごみとして排出されている陶磁器(食器)・使用済み小型電子機器や金属製の調理器具・食器類の資源化を図るため、拠点収集を拡充します。